22.3

各国歓迎、継続の可否で重い選択

大幅加筆された『詩物語　啄木と賢治』（発売　扶桑社）が好評発売中

宮澤賢治の実家近くを

「誠実本位」か「成功本位」か

正論

文芸批評家
都留文科大学教授
新保　祐司

今日、天職という大事な言葉をあらためてかみしめることは必要なことに違いない。

それはさておき、主なものを列記してみよう。

一、自己に頼るべし、他人に頼るべからず。

一、本を固うすべし、然らば事業は自ずから発展すべし。

一、成功本位の米国主義にならうべからず、誠実本位の日本主義に則るべし。

一、雇人は兄弟と思うべし、客人は家族として扱うべし。

一、誠実によりて得たる信用は最大の財産なりと知るべし。

一、清潔、整頓、堅実を主とすべし。

一、人もし全世界を得ると

「産経志塾」の講師として

9月2日、3日の2日間開催された第1回「産経志塾」で、2日目の講義を担当させて頂いたが、とても楽しかった。そもそも若い人たちに何かを伝えていくことはやりがいのあることであるが、今回は特に、参加した塾生が大変意欲に満ちているのがひしひしと感じられたからである。

論語に「憤せずんば啓せず」という言葉がある。物事を深く理解したいという思いにもだえ奮い立つようでなければ、教えないと孔子は言ったのである。逆からいえば、自発的に学ぼうとしない人間には、何を教えても無駄だということである。

その点、「産経志塾」の参加者は、内発的に学ぼうという意志が強くある者たちであり、その雰囲気は会場にあふれていた。そんな空気の中で講義するのが楽しくない訳がない。

講義の後の質疑応答の中で、内村鑑三の「成功の秘訣」に触れた。これは、10カ条から成っているが、当日は6番目の「能く天の命に聴いて行うべし。自から己が運命を作らんと欲すべからず」をとりあげて、質問に答えたが、感想文に、この言葉が印象的だったと書いた塾生がいた。しかし、他の9カ条については時間の制約もあり、触れることができなかったので、ここで、それをめぐって書いてみようと思う。

内村鑑三が記した心構え

この「成功の秘訣」は、大正15年（1926年）、内村鑑三、65歳のときに書いたものである。晩年、内村は夏を、信州の或る温泉宿で過ごすことにしていた。そこの、当時21歳だった若主人に、将来経営者になるにあたっての心構えを念頭に書き与えたのが、この「成功の秘訣」10カ条である。

ここでいう「成功」とは、もちろん世俗的な地位や名誉、あるいは金銭などを指したものではなく、「天職」を発見し、それに生きることが「成功」の根本なのである。テン職といえば、転職という言葉がすぐ思い浮かべられるもその霊魂を失わば何の益あらんや。人生の目的は金銭を得るにあらず、品性を完成するにあり。

この「成功の秘訣」の自筆原稿のコピーは、その温泉宿の売店で売られていたので、私はそれを買って、大事にしている。知人にコピーしてあげたこともある。というのは、今日の日本の、精神と倫理の総崩れともいうべき状態を思うとき、百万言を費やすよりも、この80年前に書かれた言葉を読み直す方がよほど有効だと考えているからである。

倫理の崩壊止める気力を

かつての日本が、倫理的に崩壊するのを免れていたのは、この「成功の秘訣」にあらわれているような、根本的な倫理、商業道徳といったものが、例えば信州の一温泉宿の若主人の心にもたしかに届いていたからである。そのような「誠実」を重んじる気風が、司馬遼太郎の言葉を使っていえば、日本の背骨を「圧搾空気」のように支えていたのである。

「本を固う」することを怠り、事業を広げすぎたことによる失敗例を我々は数多く知っている。また、「雇人」を「兄弟」と思わず、リストラばかりして今日の社会不安の一因を招いた。

そして、何よりも問題なのは「成功本位の米国主義」（この場合の「成功」は、世俗的な方である）を良しとする風潮が蔓延した結果、人間と社会から「品性」が失われていったことであり、今や、「誠実本位」の価値観をとりもどさなくてはならない。

ところが、このような昔の倫理的な言葉をもちだすと、すぐ、時代遅れだ、現代のグローバリズムの世界では通用しないなどと訳知り顔に説く人がいる。そういう軽薄な心は、内村も引用した「生ける魚は水流に逆らいて游ぎ、死せる魚は水流とともに流る」という警句を前に反省すべきである。そういう時代の「水流」に、逆らって生きる気力を保持していることが、その人間がまだ「生ける」魂である証しではないか。

（しんぽ　ゆうじ）

太正十五年七月二十八日、星野温泉若主人の為に草す

成功の秘訣

六十六翁　内村鑑三

一、自己に頼るべし、他人に頼るべからず。

一、本を固うすべし、然らば事業は自づから発展すべし。

一、急ぐべからず、自働車の如きも成るべく徐行すべし。

一、成功本位の米国主義に倣ふべからず。誠実本位の日本主義に則るべし。

一、濫費は罪悪なりと知るべし。

一、能く天の命に聴いて行ふべし。自から己が運命を作らんと欲すべからず。

一、雇人は兄弟と思ふべし。客人は家族として扱ふべし。

一、誠実に由りて得たる信用は最大の財産なりと知るべし。

一、清潔、整頓、堅実を主とすべし。

一、人もし全世界を得るとも其霊魂を失はば何の益あらんや。人生の目的は金銭を得るにあらず。品性を完成するにあり。

以上